

## 鼠径ヘルニア内に虫垂を認めた1例

名古屋掖済会病院外科

河合 徹 松浦 豊 河野 弘 北川 喜己  
山中 秀高 平松 聖史 川井 覚 杉浦 友則  
堀 昭彦 西垣 英治

鼠径ヘルニア内容が虫垂であることは比較的まれであり, Amyand's hernia と言われているが, その治療方針は明確にされていない. 今回, われわれは Amyand's hernia の1例を経験したので, その虫垂切除術の適応と, ヘルニア根治術の術式選択について考察し, Amyand's hernia の治療方針を示す.

症例は43歳の男性. 右鼠径部腫脹を主訴に来院し, 右鼠径ヘルニアの診断で手術を施行した. 術中所見では外鼠径ヘルニアであり, ヘルニア内容は虫垂および盲腸の一部であった. Amyand's hernia と診断し, 同一創にて虫垂切除術を行い, 盲腸を腹腔内へ還納し, mesh plug 法にて鼠径ヘルニア根治術を施行した. 術後経過は順調で, 創感染, 再発は認めていない.

### はじめに

成人鼠径ヘルニアは日常診療において一般的な疾患であるが, ヘルニア内容が虫垂であることは比較的まれであり, Amyand's hernia と称されるが, その治療方針は明確にされていない<sup>1)</sup>.

今回, われわれは Amyand's hernia の1例を経験したのでその虫垂切除術の適応と, ヘルニア根治術の術式選択について考察し, Amyand's hernia の治療方針を示す.

### 症 例

患者: 43歳, 男性

主訴: 右鼠径部腫脹

既往歴: 特記すべきことなし.

現病歴: 1996年より右鼠径部腫脹を自覚していたが, 疼痛無く放置していた. 徐々に腫脹が増大したため1999年10月20日, 当院外来受診. 右鼠径ヘルニアと診断し同年11月4日, 手術目的にて入院した.

入院時現症: 右鼠径部に径約5cmの腫脹を認められたが, 徒手還納は容易であった.

入院時検査所見: 白血球数は $7,200/\text{mm}^3$ , CRP  $0.1 \text{ mg/dl}$  と炎症所見は認めなかった.

手術所見: ヘルニア嚢根部は下腹壁動静脈外側に位置し, 外鼠径ヘルニアであった. ヘルニア嚢に周囲と

の炎症性癒着はなく, ヘルニア嚢を精索より剥離すると索状の内容物を認めた. ヘルニア嚢を開放すると, ヘルニア内容は虫垂および盲腸の一部であり, 虫垂に炎症性腫大やヘルニア嚢との炎症性癒着はなく, 虫垂間膜の根部と盲腸漿膜はヘルニア嚢の一部を構成しており, 虫垂および盲腸が滑脱した Amyand's hernia と診断した (Fig. 1). 手術は同一創にて虫垂切除術を行い, 盲腸を腹腔内へ還納し, その末梢側でヘルニア嚢を縫合閉鎖し, mesh plug 法<sup>2)</sup>にて鼠径ヘルニア根治術を施行した.

術後経過: 創感染を併発することなく経過したが, 術後2日目より化膿性扁桃腺炎を併発したため入院期間が延長し, 術後8日目に退院した. 術後10か月現在, 再発徴候は認めていない.

### 考 察

鼠径ヘルニア内容が虫垂であることは比較的まれであり, 1736年, Amyandらの報告後, Amyand's hernia と言われている<sup>1)</sup>. その頻度は Wakeley らによれば鼠径ヘルニア1,232例中12例(0.97%)であり, そのうち虫垂炎を伴ったり嵌頓していたものは4例であった<sup>3)</sup>. また, 急性虫垂炎のうち鼠径ヘルニア嚢内で炎症を起こしたものは0.13~0.19%<sup>4,5)</sup>と報告されている.

臨床症状は鼠径部腫脹が多く, 虫垂炎を伴わないものでは特異的所見は認めない. 一方, 虫垂炎を伴えば有痛性となり, 鼠径ヘルニア嵌頓と診断されるものが多い<sup>6)</sup>. いずれの場合においても術前診断は非常に困

<2001年3月28日受理> 別刷請求先: 河合 徹  
〒454 8502 名古屋市市中川区松年町4 66 名古屋掖済会病院外科

Fig. 1 A symptomatic appendix lying in the inguinal hernia sac. The mesoappendix (arrow) and cecum (arrow head) forms the sliding component on the posterior part of the sac.

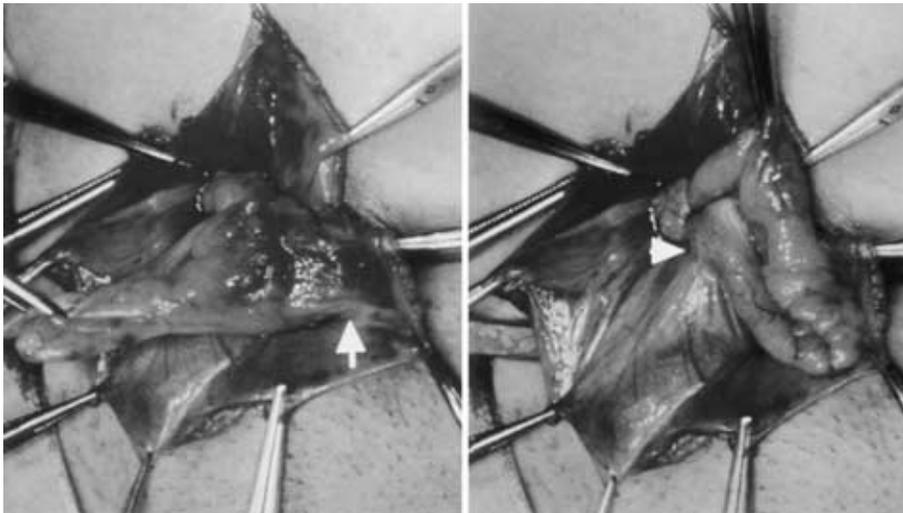
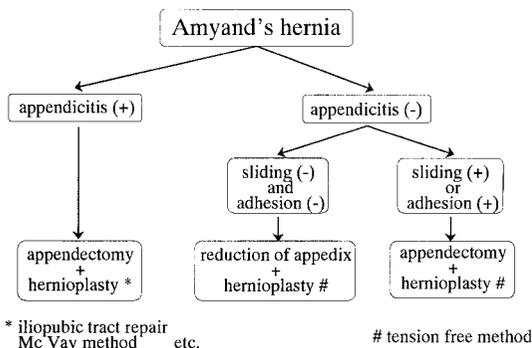


Fig. 2 Management of Amyand's hernia



難であり、鼠径ヘルニア手術中に診断されることがほとんどである。しかし、最近では画像診断の進歩により、増山らは、腹部 computed tomography にて虫垂嵌頓と術前診断し得た1例を報告しており<sup>7)</sup>、その有用性を示している。

治療法は、虫垂炎の有無や虫垂のヘルニア嚢への癒着・滑脱などによる虫垂切除術の適応、ヘルニア根治術の術式選択についての統一した見解は得られていない。そこで、われわれは Amyand's hernia の治療方針について図に示すように考えた (Fig. 2)。

急性虫垂炎を伴う症例では虫垂切除術の絶対適応で

あり、虫垂根部の処理が可能であれば鼠径ヘルニアと同一創から、それが困難な場合は開腹して虫垂切除術を行い、同時にヘルニア根治術を施行する。この際、ヘルニア創感染の頻度が約50%と非常に高いため<sup>8)</sup>、meshなどの人工物の使用は避け、iliopubic tract repair や、Mc Vay 法などが選択される<sup>5,9)</sup>。

虫垂炎を伴わない症例では、ヘルニア嚢に虫垂の滑脱や癒着を認めず、虫垂先端のみがヘルニア嚢内に存在し容易に徒手還納できる場合は、虫垂は切除せずに鼠径ヘルニア根治術のみ施行する。しかし、ヘルニア嚢内に虫垂または虫垂間膜の滑脱・癒着を認める症例や、移動盲腸や鼠径部への盲腸の滑脱により虫垂根部が内鼠径輪まで下降する場合は、ヘルニア根治術による炎症の波及や、癒着した虫垂の剥離操作により虫垂炎が引き起こされることがあるため<sup>10)</sup>、虫垂切除術の適応と考える。

近年、mesh plug 法などによる tension free hernioplasty の術後 quality of life が検討され、疼痛の軽減、在院日数の短縮、再発率の低下などの点において従来法より有効である<sup>11,12)</sup>。また、polypropylene mesh は感染に非常に強く、生体の拒絶反応もほとんど無い<sup>13)</sup>。Amyand's hernia における鼠径ヘルニア根治術の報告例では、虫垂炎を伴う症例がほとんどのため iliopubic tract repair や Mc Vay 法などが選択されて

いるが、虫垂炎を伴わない症例では tension free hernioplasty の適応もあると考えられる。

自験例は虫垂炎を伴わない Amyand 's hernia であったが、盲腸および虫垂間膜の滑脱した症例であり、手術操作により虫垂炎が引き起こされる可能性が高いことと、移動盲腸による虫垂の足側への偏位のため将来虫垂炎発症時、非典型的な症状を呈し診断および治療に難渋する可能性を考慮して虫垂切除術を施行した。今後、虫垂炎を伴わない Amyand 's hernia において人工物を使用する tension free hernioplasty が適正かどうかはさらなる症例の集積と検討が必要であるが、自験例では術後創感染を併発することなく良好な結果が得られ、有用な術式と考えられた。

#### 文 献

- 1) Hutchinson R : Amyand 's hernia. JR Soc Med 86 : 104 105, 1993
- 2) Rutkow IM, Robbins AW : " Tension-free " inguinal herniorrhaphy : A preliminary report on the " mesh plug " technique. Surgery 114 : 3 8, 1993
- 3) Wakeley CPG, Lond DSc : Hernia of the vermiform appendix. A record of sixteen personal cases. Lancet 2 : 1282 1284, 1938
- 4) Ryan WJ : Hernia of the vermiform appendix. Ann Surg 106 : 135 139, 1937
- 5) 木花鋭一, 栗栖 茂, 八田 健ほか : 外鼠径ヘルニア

- ア内急性虫垂炎の 1 例 . 日臨外会誌 60 : 2423 2425, 1999
- 6) 今井直基, 田辺 博, 渡辺 進 : 鼠径ヘルニア内虫垂嵌頓の 1 例 . 外科診療 35 : 599 602, 1993
  - 7) 増山 守, 中瀬有遠, 福田賢一郎ほか : 術前 CT にて診断し得た再発鼠径ヘルニア内嵌頓虫垂の 1 例 . 日腹部救急医学会誌 19 : 1013 1016, 1999
  - 8) Thomas WEG, Vowles KDG, Williamson RCN : Appendicitis in external herniae. Ann R Coll Surg Engl 64 : 121 122, 1982
  - 9) 内田正昭, 金森弘明, 山口恵美ほか : 虫垂が嵌頓した鼠径ヘルニアの 1 例 . 日臨外会誌 59 : 1419 1422, 1998
  - 10) Ofili OP : Simultaneous appendectomy and inguinal herniorrhaphy could be beneficial. Ethiop Med J 29 : 37 38, 1991
  - 11) 上塚大, 椎木滋雄, 渡辺直樹ほか : 成人鼠径ヘルニアに対する tension-free hernioplasty の試み . 日臨外会誌 60 : 931 934, 1999
  - 12) 長倉成憲, 石崎悦郎, 相場哲朗 : メッシュプラグ法によるヘルニア修復術後の quality of life に関する検討 . 日臨外会誌 60 : 1479 1482, 1999
  - 13) Amid PK, Shulman AG, Lichtenstein IL, et al : Biomaterial for abdominal wall hernia surgery and principles of their applications. Langenbecks Arch Chir 379 : 168 171, 1994

#### A Case of Inguinal Hernia Contained the Appendix Vermiformis

Toru Kawai, Yutaka Matsuura, Hiroshi Kono, Yoshimi Kitagawa, Hidetaka Yamanaka  
Kiyoshi Hiramatsu, Satoru Kawai, Tomonori Sugiura,  
Akihiko Horii and Eiji Nishigaki  
Department of Surgery Nagoya Ekisaikai Hospital

Inguinal hernia containing the appendix vermiformis Amyand 's hernia is relatively rare. So its management is not achieve the consensus. We reported a case and discuss its indication of an appendectomy and hernioplasty. A 43-year-old man admitted to our hospital due to right inguinal swelling was diagnosed with right inguinal hernia. Operative findings disclosed an external inguinal hernia. The hernia sac contained the appendix vermiformis and part of the cecum. We diagnosed it as sliding hernia, i.e., Amyand 's hernia. We reduced the cecum manually after appendectomy and hernioplasty, and used a mesh plug in the same wound. The postoperative course was uneventful.

Key words : Amyand 's hernia, inguinal hernia, appendix vermiformis

[ Jpn J Gastroenterol Surg 34 : 1341 1343, 2001 ]

Reprint requests : Toru Kawai Department of Surgery Nagoya Ekisaikai Hospital  
4 66 Shonen-cho, Nakagawa-ku, Nagoya, 454-8502 JAPAN